



# 2019年 8月人権一口講座



「個」の子は「た・か・ら」

ふれあい文化センター出前講座として、近くの小学校に出かけた。その日の話は「ふれあい文化センターってどんな所？」である。以前の職場からこの建物へと異動したと友人知人に連絡したところ、「どこあったっけ？」と返されたことを思い出した。「えっ知らないの？」私の意識の中に昔からあった館ではあるが、人々はこうも知らないのだと分かった。

学習中に3年児童に質問された。「どうしてふれあい文化センターって名前ですか？」その答えとして私が回答したのは「センターはね、市民のふれあいと連帯を図る（計画し実施する）とともに、その生活文化及び福祉の向上に資する（役立つ、助けとなる）ために作られた建物なの。」とまず話をし、「話の中にふれあいと文化の言葉が入っていたでしょう。そこから建物の名前が付けられたと思う。ごめんなさい、名付けた人が誰かは分からないけれど、作られた意味や願いが名前にしっかりと表れているのです。」と話すと、児童たちは輝くひとみを下に向け、鉛筆を持ち学習プリントへ一生懸命に書き始めた。「素敵な子ども達に会えました。」

性別の違い・性格・学習の様子・おしゃべりの度合い等、顔や名前が違つように、その「個性」も他と違い同じものは無い。違う個性と触れ合える楽しさを今日感じた。今日のような良い機会を得られた事、たくさん「個性」に出会えた事に嬉しさを感じた。

職場に戻り、今日の出来事を伝えたくて話したくて我慢できずに一気に話した。

「あなたはあなた。わたしはわたし。みんな違ってみんないい。」

学校の先生方も思いや願いを持ち、日々子どもたちの指導に当たっていらつしやると思います。たくさんの子どもの「個性」からあふれ出る「個」の輝きに目を留めて、学校生活が楽しいものとなるよう先生方が努めていただいていることに感謝です。

子ども達はどの子も「宝」です。家庭や地域でも子どもは「宝」です。そんな「宝」の子ども達のことを、先生方や地域の方々・家庭でもしっかりと見つめて、これからも導いていって欲しいなあと思っています。

## 短いメッセージ

友達と ゆかをごしごし みがいたよ  
きれいな心に なったかな またやりたいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 帯山西小学校5年 川野 心聖さん